



今年もまもなく過ぎ去ろうとしています。皆さまにとって今年はどのような一年であったのでしょうか。私はどんな状況にあらうとも、今生きて居られることへの喜びと感謝の思いを持って生きられることを願って一日一日を過ごしているつもりなのですが、なかなか簡単なことではないようです。すべてが「あたりまえ」になりつつある世の中にあって、ただぼんやりと「あたりまえ」を享受して生きているだけだったような気がしてならないのです。

空過。そんな一年がまもなく過ぎ去ろうとしています。「いたずらにあかし、むなしく月日をおくりて…」お文(2帖の12)がしみじみと思ひ浮かんでくることです。

まじりの信心でもあったため

MM

現在真宗門徒のかかえる最大の課題は「まじりの信心にであう」ところではないでしょうか。仏教は形骸化したと言われますが、「ご利益頼みの念仏の横行は、それを象徴するものです。今の時代に、まじりの信心に出会うためには、どの領域に注目していくべきか、この頃寺でも話題になつており、その一端を申し述べたいと思います。」

まず足がかりとなるのは、浄土真宗に特有の妙好人の存在です。江戸時代以来でも數位百人を輩出していましたが、広く知られているのは、島根の浅原才市鳥取の足利源左香川の谷口庄松などです。こうした妙好人に共通するのは、無学で、貧しい生活をしながら聞法に接し、持ち前の鋭い感性で、教えをかみしめ、感激感動の内に他力の世界に没入されていかれました。その深い信心の境地は、優れた学識を持つ人にも及ばない、広く豊かな宗教世界でした。

この妙好人から教えられることは、現代人はすぐに知識に頼りがちになりますが、妙好人は知識を超えて仏教を深く味わい、鋭く感じとつていく「鋭敏な感性」を具えていたことでした。

こうしてみると、現代に生きる私どもの反省点は、知識もさることながら、御仏の広大深遠な慈悲をじっくり味わい、感じとつていく感性の深めに務めることだと思われれます。そのためには日常生活のなかで、からだの働きや、自然の営みに注意を払い、守られ生かされる自然の働きのすばらしさ、すなわち他力を感じ取つて、心からの感謝の念を抱くような日常でありたいと思います。



本山奉仕団その2

奉仕団に参加して

TM

奉仕団参加のお話を始めてお聞きしたのは、2月の年忌法要の時だったと思います。住職様より「来年、本山に行かない」とお誘いをいただき、当時は参加してもいいかなといった気持ちでございました。そして8月の年忌法要でのお誘いもあつて、奉仕団への参加、帰敬式を受けさせていただくことになりました。

当初は「まだ若いのに、そんなところに行くのは」「休みが取れないから、またの機会に」「わざわざ何をしに行くのか」などと参加を断る理由を作ることには簡単だったかもしりません。

確かに「断る理由がないから参加してみよう」という積極的ではない理由ではありましたが、今回参加できなかったのは、ひょとどこに何かの「縁」だったと思っております。当日は、自分自身勉強不足のため、聞いたこともない言葉が飛び交つ中、また作法もよく分からないまま参加してしまいました。一緒に参加した方々にお聞きしながらわすれずかですが見分を広めることができたかなと思います。「この場を借りてお礼申し上げます。」

えんぴつ一本 Y-さん

えんぴつ一本でできるからと誘われて二十三年。岩田よし子さんは墨俣俳句教室に通う。十一月には墨俣町の文化祭に色紙に書いた俳句を出展した。



この会はもともと地元の人、故近藤一鴻氏が主宰として開かれた「目壽風」かいよせを母体としている歴史ある会なのだそうだ。毎年九月には太閤記俳句大会が開かれ、小学生から大人まで多くの作品が出品されるといふ。

そしてこの作品は主人と一緒に海津温泉に出かけた帰りの養老山脈に沈む夕日の美しさを詠んだのだそうだ。

他にも



やまひた
山巖の
深き山並
かんあかね
寒茜

涼風を

曲げて送りぬ

嬰の床

などの作品がある。

孫の風寝を気遣うそよひ送る風は祖母の孫への愛おしさがよくあらわれていてよみほけして読む。

曲げて……直接孫に風を当てないようについたん風を壁にあてて送る。嬰の床…幼い子供が寝ている床。

今月の法語

賢者の信を聞きて愚禿が心を顕わす。
賢者の信は、内は賢にして外は愚なり。
愚禿が心は、内は愚にして外は賢なり。

流罪の地における深く厳しい孤独感の中で、親鸞は深い懺悔を表白してゆく。かつて師法然の浄土宗の人は愚者になりて往生す」という教えに帰し、自らを凡愚の身と認めてゆくのでした。しかし賢く装ってみても、人間の業をさらけ出すほかならぬ身の愚かさを知らせられていたのだ。

年末から年始にかけての行事

十二月三十一日(月)大晦日十一時四十五分より

除夜の鐘

「家族そろってお出かけください。おぜんざいも用意いたしております。」



平成三十一年

一月二日 夜(午前十時

修正会

一年の初めに莊嚴を整え、身も心もひきしめ、仏恩報謝の思いをもて新しい年へのぞむ仏事です。
みなさんと一緒に正信偈を読みましょ。



仏法を聞く

縁に恵まれますように

一月十二日(土) 午後五時より

懇親会

おんを囲んで

有志の方の「厚意」により始まりましたこの行事。今ではすっかり恒例の行事となりました。お気軽にお出かけください。

会費 五〇〇円

お酒を飲まれる方は、お車は「遠慮」ください。